第２号様式

ひろしまの森づくり事業（交付金事業）推進の考え方（第3期：H29～H33）

市町名： 庄原市

１ 要旨

庄原市の総面積(124,649ha)の約84％にあたる104,944haを森林林が占めており、そのうち民有林の面積は97,959haである。
本市では、ひろしまの森づくり事業に取り組む基本方針として、1「美しい里山の再生を図る」、2「多様な住民、組織・団体の参加を促す」、3「成果が見えるモデル事業の実施」、4「効果的な整備・支援事業の実施」を基本方針として、里山林においても集落を中心とした周辺の森林環境の整備や活動団体への支援を通じ、一層の森づくりの推進を図る。

２ 里山林の現状と目指す姿

区分	現状	課題	目指す里山林の姿	取組む内容
景観保全	里山林の手入れ不足により、集落周辺の美しい里山風景が損なわれている。	適切な森林整備を行い、美しい里山風景を取り戻す必要がある。	四季おりおりに姿を変える美しい里山風景を創る。	放置森林の整備（除間伐）、松くい虫被害跡地の整備（伐採・集積）、竹林繁茂防止の整備（伐採・集積）による森林景観を取り戻す森林整備を行う。
鳥獣被害防止	里山林の手入れ不足により、イノシシなどの野生生物による被害が人里付近に拡大している。	野生生物との共生を目指した里山林の整備により、鳥獣被害の軽減を図る必要がある。	人と鳥獣の共存を図ることが出来る里山を創る。	鳥獣被害が発生している集落を中心に、バッファゾーン整備（緩衝帯としての除間伐）により、被害防止を目的とした森林整備を行う。

※区分は市町が森づくり事業に取り組む方針により選択して記載すること。

３ 森林を守り育てるための取り組み

区　　分		現状と課題	目指す姿	取組む内容
森林を守り育てる体制	森林整備を行う者 （森林ボランティア団体） （住民団体等） （小規模林業経営者） ※主体別に記入	・手入れ不足の森林をどうにかしたいとの声が多い一方、森づくり事業を活用するボランティア団体は財務基盤が脆弱であるため、継続した支援の要望が多い現状である。 ・木材価格の低迷に起因する林業経営の採算性の課題等により、一部の大規模林家を除き小規模な林業経営が困難な状況であり、管理が不十分な森林が点在している。	・地域住民が主体となって森林の手入れを行うことで、美しい里山風景を創るとともに住民が森林を整備した実感をもってもらうことにより関心が高まっている。 ・小規模林業経営者が、自己所有林はもとより、地域での受託も行い、循環型の森林整備及び森林資源が活用されている。	・里山保全活用支援事業や森林・林業体験活動支援事業を活用し、ボランティア団体の活動継続と組織の活性化を図り、次世代に引き継ぐ。 ・新たな森の守り手について、市内在住者を中心に模索し、支援にあたっては守り手にあった支援となるよう県と連携しながら進める。
	森林整備を助ける体制 （森林資源の継続的利用）	・本市内の一部で、木の駅プロジェクトが立ち上がり活動をされているが、集材・搬出時における労力の軽減が課題である。	・木の駅プロジェクトが管理する、集材・運搬機を会員が広く活用し、地域材が安定的に搬出され、この取り組みが市内へ広がっている。 ・森林整備や森林内でのイベントを通じて住民が里山と触れ合う環境や機会が増加している。	・森づくりの促進に向け、市内の取り組み団体と連携し、支援を含めて更なる市内への普及を図る。
取組への理解促進	住民への説明	・ひろしまの森づくり県民税による事業が、どのように展開され、どのような効果に資しているか周知が不十分。	・市民が森づくり県民税の使途や効果、実績を理解している。	・県と連携し、市広報誌を活用し事業の実績や効果を市民に広く発信する。
	参加拡大による理解促進	・市民が森林整備などの体験と学習をする機会の情報発信力が乏しい。	・市民が欲している、森林・林業に関するイベントや活動などの情報がタイムリーに入手できる。	・市ホームページ内での、森づくり事業の効果や実績等の情報発信により普及を図る。
	事業の理解		・実施箇所が、市民や観光客へもわかりやすい箇所である。	・事業実施箇所については、森づくり事業で整備した旨の看板等を設置する。